

差別に加担しない信仰的応答

— 諸教会・伝道所への祈りと呼びかけ —

日本バプテスト連盟諸教会・伝道所の皆さまへ

「正義を行い、慈しみを愛し へりくだって神と共に歩むこと」（ミカ書6章8節）は、私たちの信仰の根幹です。私たちはこの言葉に立ち返りたいと思います。

2025年7月に行われた参議院議員選挙では、「日本人ファースト」のフレーズが登場し、「外国人が優遇されている」など事実と反する排外主義的な主張が街頭演説で繰り返されました。また2025年10月に行われた川崎市長選挙においても、部落差別に関わる地名の公開や、在日コリアン地域への差別的言説を公の場で繰り返してきた人物が、「ヘイトスピーチ条例の撤廃」を公約に掲げ、選挙活動を行いました¹。

このような主張は被差別部落出身者や在日外国人、外国にルーツのある人々など、マイノリティの人々の尊厳を脅かすものであり、福音に生きる者として、決して看過してはならないものです。差別を「表現の自由」として正当化し、痛みを抱える人々の声を封じることは、神の愛とキリストの福音に反します。

選挙は、社会の方向性を形づくる重要な機会です。しかしその社会には、選挙権を持たない人びとも確かにいます。選挙権の有無にかかわらず、教会に集うすべての人々に呼びかけます。それは、私たち一人ひとりが、この社会を共に形作っていると信じるからです。

沈黙や無関心は、中立であり続けることではありません。それは結果として、差別に加担する側に立つことにもなり得ます。私たちはその可能性を、自分自身の問題として引き受けたいと思います。

以上を踏まえ、私たちは、差別を黙認しないために、祈りと対話をもって、以下のことを心に留めます。

差別に加担しないための信仰的応答

- ・被差別者・マイノリティの人々と共に生き、悔い改めに生きること
- ・「表現の自由」の名のもとに差別を容認しないこと
- ・教会・伝道所が信仰的良心をもって政治に関心を向けつつ、差別に対しては明確に「否」を示すこと
- ・教会・伝道所での対話と学びを通して、差別の構造を理解すること
- ・隣人を自分のように愛し、出会い続け連帯していくこと

私たちは、主の平和と正義を求める群れとして、差別のない社会の実現に向けて歩み続けます。部落問題特別委員会は、祈りと執り成しをもって、信仰的応答することを改めて決意表明し、呼びかけます。

主の憐れみと導きが、すべての教会・伝道所の上にありますように。

主にあって

2026年2月28日

日本バプテスト連盟部落問題特別委員会

¹ 参照記事 神奈川新聞（2025年10月27日付）<https://www.kanaloco.jp/news/social/article-1219122.html>